

## 第 8 回会議で出された主な意見（抜粋）

## 【北九州市の教育のあるべき姿・目指すべき姿について】

（10年後のあるべき姿・目指すべき姿（目指す子ども像等）に関する視点）

今、一番問われているのは、徳育の中でも人とのかかわり、社会とのかかわりということで、「思いやりの心」というものが欠けている。この「思いやりの心」というものを強調してほしい。

学校の教育の上で挫折というものがあり、思いつめて自閉になることがあると思う。

そこで、かなう夢、絶えず夢を持つことで、いろんなことを克服することができるのではないかと考えている。

一番大切なのは、人から愛されて、人間に対する信頼感があるということだと思う。

「北九州は人に優しい」というようなことを前面に出してほしい。

学校・家庭・地域ということで考えられているが、教育というものは就学前から始まっていることなので、学校と言い切るのはどうかと思う。

生まれたときからのベースがあり、就学前の教育があって、その後、学力、体力を付け、知識、徳育、徳力を付けていくと思う。このため、就学前からの教育というのは絶対無視してはならないと思う。

10年後のあるべき姿等の「学校」について、「時代に即した北九州らしいよりよい教育環境を提供し」まではよいが、そのあとの「子どもの教育に関わる家庭や地域の拠り所としての役割を果たす」については、「何でも学校で」と受け取れる。

学校は教育に関わっているので、保護者や地域と連携し、相談しながら子どもをしっかりと育てるところは分かるが、「拠り所」となると少し厳しいと思う。

家庭は家庭の教育力、地域は地域の教育力というようなところも、ぜひ見てほしい。

10年後のあるべき姿・目指すべき姿において、行政がどういうふうに関わっていくのかが見えてこない。行政が直接的に教育にアクションを起こそうとすると、学校が一番直接的であり、「拠り所」という表現もせざるを得ないというようなことは理解するが、行政は、家庭や地域に対してどのような立ち位置に立つのか見えない。

教育を取り巻く当事者というのは、児童・生徒、保護者、教職員、地域住民、企業だけではなく、行政が主体の姿をもって望むべきと思うが、その姿が見えていないと思う。

10年後のあるべき姿等の「学校」について、「時代に即した北九州らしいよりよい教育環境」というのがよく分からない。また、今の北九州市の現状を考えた場合、あるべき順番としては、一般的な学校・家庭・地域ではなく、家庭を一番最初に持ってくるべきではないかと思う。

また、「生きる力」という文言に関しては、いろいろな楽しいこと、苦しいことなどたくさんある中で、目標に向かって乗り越えていく力を付けてあげることが私たちの役割であり、また、行政もそれを支えていくという役割があると思う。

目指すべき子ども像の“北九州っ子”にこだわるべきと思う。北九州をこれから背負っていく子どもたちが、どういう子どもになってほしいのかというメッセージをここで書くべきと考える。「充実した～可能性の引き出された子ども」ではあまりイメージできない。

いろいろな子どもを均等にする必要はないと思うので、アジアで活躍するとか、個性あふれるなどの言葉があるべきと思う。市民が“北九州っ子”ってこんな子どもになってほしいということを、ここにメッセージとして訴えることができればよいと思う。

せっかく10年後の未来像をつくるのであれば、“北九州っ子”というのは、学校ではこんなことをしている。家庭ではこんなことしている。」など、保護者が見て読んで理解できるようなものにするべき。特に学校や家庭のあり方などは、分かりやすい文言にするべきと思う。

目指す子ども像で、“北九州っ子”というタイトルはよいと思うが、立派な表現であるより、10年後に北九州が一番になるために、イメージできる言葉にする必要があると思う。読んだ人の心を動かせるような言葉ができればよいと考える。

#### (本市の教育の目指すべき方向性(各主体の姿)に関する視点

「子ども」という表現と「児童・生徒」という表現がそれぞれ入っている。

子どもの中には、幼稚園が含まれていると思うので、「児童・生徒」という表現の中に幼児を含んだものかどうかなどが分かりにくくなっていると思う。

10年後のあるべき姿等の中の「地域」には企業が含まれるのかわからない。目指すべき方向性(各主体の姿)では、地域住民・企業と分けて記載されている。

子どもと接触できる親の時間がなければ、子どもは健全に育たないので、企業の協力というのは絶対不可欠だと思う。そういうことから、あいまいな表現では分かりにくいと思う。

北九州のパンフレットを見ると、すべて「学力」、「体力」のあとには、「心の豊かさ」とか「豊かな人間性」という言葉が書かれている。言葉としては、「学力」「体力」「徳力」ということで統一するべきと思う。

「徳」という言葉は、「素直な心」と書かせて「とく」と読ませていた。「徳」という意味をしっかりと理解したら、徳育というものがもっと中心になっていくと思う。

大半の保護者が、今、一番子どもに望んでいることは、「健康な心」であると思う。それは、元気でにこにこしている、毎日楽しいと言いながら学校に通っているという、そのあたりを求めている人が圧倒的に多いような気がする。

学力や体力が先行しているように見えてしまっており、そうではなく、もうちょっと違う順番があったり、違う視点があるのではないかと思う。